



(参考仮訳)

プレスリリース No. 07/211
即時解禁
2007年9月28日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントンDC

IMF理事会、ドミニク・ストロスカーン氏を次期IMF専務理事に選出

国際通貨基金 (IMF) 理事会は本日、ドミニク・ストロスカーン氏を、2007年11月1日からの5年間を任期とするIMF専務理事ならびに理事会議長に選出した。ストロスカーン氏は、ロドリゴ・デ・ラト氏の後任となる。

24人の理事で構成される理事会は、ストロスカーン氏を、候補者の経歴ならびに2007年7月12日に理事会が定めた選定プロセスに基づいて選出した。[\(プレスリリース No. 07/159\)](#) 専務理事の候補者2名との面談の後、理事会は両候補者の優れた点について検討し、その後ストロスカーン氏を理事会の総意により正式に選出した。

専務理事は、IMFの業務を遂行する職員の長であり、理事会の議長である。専務理事は、3人の副専務理事の補佐を受ける。IMFは185カ国の加盟国から成り、職員の出身国は140カ国以上に上る。

ストロスカーン氏 (58) はフランス国籍で、フランス国民議会の議員およびパリ政治学院の経済学教授である。同氏は1997年6月から1999年11月まで経済財政産業相を、1991-1993年には産業貿易相を務めた。1993-1997年には企業弁護士として民間部門で活動した。2000年以降はパリ政治学院で経済学の教鞭を取るほか、米国スタンフォード大学の客員教授を務めた。同氏はパリ大学で経済学博士号を取得した。